

C-65 五節舞姫装束について (構成・縫製上の一考察)
大谷女子短大被服 河野美代質

目的 宮廷に古代より伝わり、大正・昭和の大嘗祭にも演じられた舞楽「五節舞」に童女が着用された特殊な宮廷服として非常に興味深いものであるが、これについて今までに報告された研究は少ない。そこで現存する「五節舞姫装束」を調査し、平安時代の装束構成を伝える広袖系女子宮廷服のうち大正期の「唐衣裳」「小袴」「袴」との比較検討を試みた。

方法 大正4年11月の御大典に準備された「五節舞姫装束」8領のうち2領を採寸し、その装束構成、各部寸法および縫製技法を調査した。

結果 装束構成は「唐衣裳」より「五衣」を省略し、「長袴」を短かくしたものと見做すことが出来る。地質・色目・文様には「五節舞姫装束」としての一定の様式があり、「唐衣裳」とはかなりの相異が認められる。各部寸法は若干の部位を除いて殆んど「唐衣裳」と同様であると見做すことが出来る。縫製については一部に地質に関連した特異性がある。

また美術的立場よりみれば大嘗祭大饗才一日の儀に於て行われる装束としての重厚さと、演舞に用いられるための演出効果を兼ね備えた特異性も認められるので報告する。